



地域

えんどう あつこ 遠藤 敦子さん (牛島)

67歳。開成町婦人会長。「瀬戸屋敷ひなまつり」を町の一大イベントまで成長させた立役者一人。

婦人会に入ったきっかけは?
近所の方に誘われて、ですね。40代後半で入って、楽しんでいるうちに、気がつけば会長になっていた感じです。地域に興味がない人が多くなっていると言われますが、自分の町を知るって大切ですよ。

過去の活動のハイライトは?
ひなまつりが初めてNHKの番組で取り上げられた時かな。当時は本当に手作りのイベントという感じで、楽しめたですよ。組織としても勢いがあって、やること一つ一つに手応えがありましたね。

地域活動の担い手がないと
いろいろあって良いと思うんですね。それぞれ仕事や家庭があるんだから、地域との距離の取り方、どういう役割をどこまで担うか、違いを尊重することが必要じゃないでしょうか。そうしないと、お願いする側、お願いされる側、どちらも楽しくないです。

地域活動への関わり方つて
これからの目標は?
新型コロナのために活動が制限されて、久々にゆっくりできる時間をもらいました。これから婦人会の活動をどうするかも考えています。まずは、目の前のことをして楽しみながら、一つ一つ積み重ねていきたいですね。何ができるか、ウキウキしますよ。

地域活動の担い手がないと
いろいろあって良いと思うんですね。それが仕事や家庭があるんだから、地域との距離の取り方、どういう役割をどこまで担うか、違いを尊重することが必要じゃないでしょうか。そうしないと、お願いする側、お願いされる側、どちらも楽しくないです。

地域活動への関わり方つて
これからの目標は?
新型コロナのために活動が制限されて、久々にゆっくりできる時間をもらいました。これから婦人会の活動をどうするかも考えています。まずは、目の前のことをして楽しみながら、一つ一つ積み重ねたいですね。何ができるか、ウキウキしますよ。



① 瀬戸屋敷ひなまつりの「つるし雛」。インドネシアから注文が入ったことも。
② ひな人形づくりで培った技術を生かし、町の子どもたちのため布マスクを作った。

趣味

いのうえ まさとし 井上 正敏さん (上島)

70歳。17歳から鳩の飼育を始める。鳩レース競技にのめり込み、獲得した賞状やトロフィーは数知れない。

レース鳩の魅力は?
人と同じで、顔つき、体つきが一羽ごとにまったく違う。レースは100kmの短距離から1100kmの長距離まであって、個体ごとに向き、不向きがあるんです。性格だって違う。温厚、神経質、意地悪…。普段いじめられているような気の弱い鳩が良い成績を残したりするんだから、面白い。

あとは、育て方の試行錯誤が結果に出てくること。勝つためには、勝負相手が寝ている間に努力することが大切だと考えています。真冬だろうが、朝の3時に起きて作業を



人に伝えたいのは、せっかくやるなら楽しんでほしいということ。役の特権で、とことん楽しめばいい。「つまらない」と思いながら義務を果たすのは、つらいだけだと思いますよ。

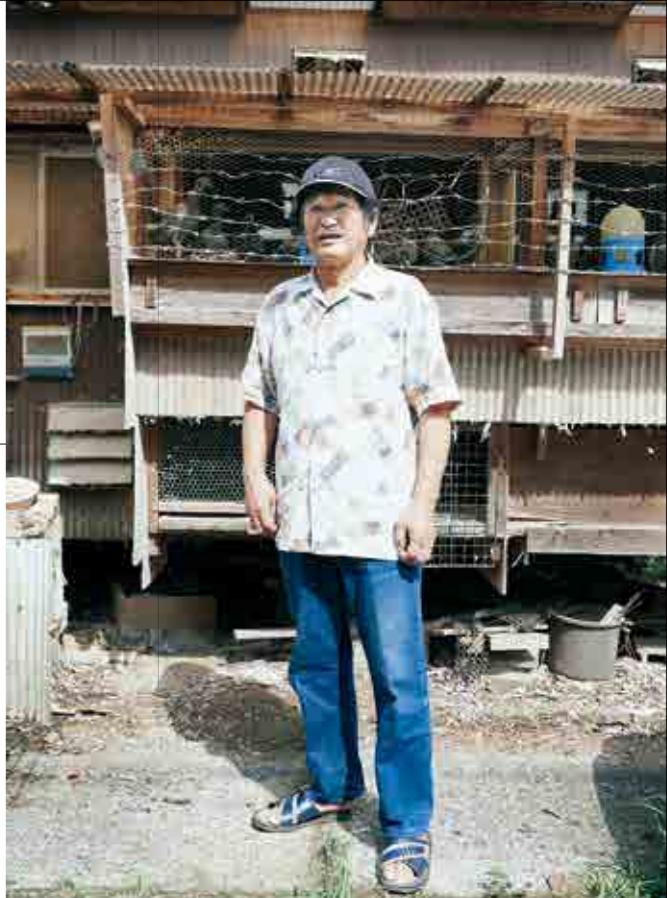
活動の原動力は?

結局は、人に楽しんでもらいたいんですね。周りの人には喜んでもらえなければ、活動の意味はないと思います。

あと、性格的に中途半端が嫌なんですね。他人の評価は別にして、自分で100%じゃなきゃ嫌。頼まれごとであっても、自分なりに勉強して、だんだん面白く感じてくるんですよ。だから、やられてる感覚はないかな。

これからの目標は?

春先に大病をして、少し視力に心配があるんです。以前どおりに鳩を育てることはできないですが、自分が経験して学んだこと、師匠から教わったことを、若い仲間に伝えていければいいですね。■



競技人生のハイライトは?
神奈川県を含む4県のエリアで総合優勝した時かな。夢の中で、ある場所で願をかければ必ず優勝するってお告げがあったんですよ。そのとおりにしたら、優勝できた。夢に見るほど、のめりこんでたつ軒で表彰式があつて、金屏風の前に立った時は本当に嬉しかったですね。

趣味のキッカケは?
友だちが飼っていたのが始まり。高校生の時から52年間続いていますね。賞状の数と、52年間一つの趣味を続けていることだけは、自慢できます。

することもありますよ。やっぱり、勝ちたいんだよね。

人生で趣味を持つ意味とは?
私の場合は、ある意味、人生を鳩に託したんですよ。他人に自慢できることはないけど、この世界にいるからこそ経験できたことがたくさんあります。普通だつたら行けないような場所にも行つたし、競技を通じて日本全国に友だちができた。師と仰げるような人に会えたことも財産ですね。そう考えると、幸せなんじゃないかな。



① 総合優勝した鳩、J.D. ブルーキーン号。ヒナの時から逸材だと分かったという。

② 鳩舎。ここまで大きなものは珍しい。レースでは、出発地点から鳩舎に帰ってくるまでの時間を競う。

することもありますよ。やつぱり、勝ちたいんだよね。

友だちが飼っていたのが始まり。高校生の時から52年間続いていますね。賞状の数と、52年間一つの趣味を続けていることだけは、自慢できます。

ベルギーまで鳩を買い付けに行つたこととか、鳩レースン・アーレンドンクに会つたことも、思い出深いですね。バスケットで言えばマイケル・ジョーダンに会つたようなのです。